







R-15

### 非耐力壁

#### 1) 非耐力壁 配筋リスト

| 呼称           | 非耐力壁      |           |           |           |           | 備考    |
|--------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------|
|              | W100      | W120      | W150      | W180      | W200      |       |
| 断面図<br>(立断面) |           |           |           |           |           | 止めの配筋 |
|              | 縦筋        | D10 φ 250 | D10 φ 200 | D10 φ 150 | D10 φ 200 |       |
| 横筋           | D10 φ 250 | D10 φ 200 | D10 φ 150 | D10 φ 200 | D10 φ 200 |       |
| 開口部補強筋       | 1 - D13   | 2 - D13   | 2 - D13   | 2 - D13   | 2 - D13   |       |
| 開口部補強筋       | 1 - D13   | 2 - D13   | 2 - D13   | 2 - D13   | 2 - D13   |       |

#### 2) コンクリートブロック壁 配筋リスト

| 呼称           | コンクリート壁   |           |           | 備考          |
|--------------|-----------|-----------|-----------|-------------|
|              | CB100     | CB150     | CB200     |             |
| 断面図<br>(立断面) |           |           |           | * 壁厚は配筋を示す。 |
|              | 縦筋        | D10 φ 400 | D10 φ 400 |             |
| 横筋           | D10 φ 600 | D10 φ 600 | D10 φ 600 |             |

#### 3) 非耐力壁の削付け

・壁のダブ配筋を行う場合、縦筋は筋数の外側に配する。  
・壁の削り止め筋の配筋は、上記以外でのダブ配筋を行う場合にも適用とする。

名称 ラーメン構造非耐力壁 (その1)  
縮尺 R-14-1

R-17

### 6) 完全スリット及び部分スリット要領

#### (a) スリット要領

・スリットは設計図に示すこと。  
・スリット幅は、本棟と同様の交差を考慮し、二次筋の長さ(筋の中心間)は、二次筋の長さの1/10以上とする。

#### (b) スリット部の詳細

① 部分スリット  
・壁一歩筋力  
・筋の配置は設計図による。

② 完全スリット  
・壁一歩筋力  
・筋の配置は設計図による。

名称 ラーメン構造非耐力壁 (その3)  
縮尺 R-14-3

R-16

### 4) 非耐力壁開口補強, スリット詳細

注) 開口部補強筋は全てD13を示し、---表示の補強筋はW120以上の場合に適用する。

#### (a) フレーム内の場合

#### (b) フレーム外の場合

#### 5) ひび割れ防止用補強筋

| 筋径 | W100 |     | W120, W150, W180, W200 |     |
|----|------|-----|------------------------|-----|
|    | a    | b   | a                      | b   |
| 縦筋 | 400  | 200 | -                      | -   |
| 横筋 | 200  | 200 | 400                    | 200 |

| 筋径 | W100, W120 | W150, W180, W200 |
|----|------------|------------------|
|    | a          | b                |
| 縦筋 | 200        | 200              |
| 横筋 | -          | 200              |

名称 ラーメン構造非耐力壁 (その2)  
縮尺 R-14-2

R-15

### 耐力壁・地下壁

#### 1) 耐力壁の配筋

##### (a) 柱への配筋

##### (b) 梁への配筋

#### 2) 地下壁の配筋

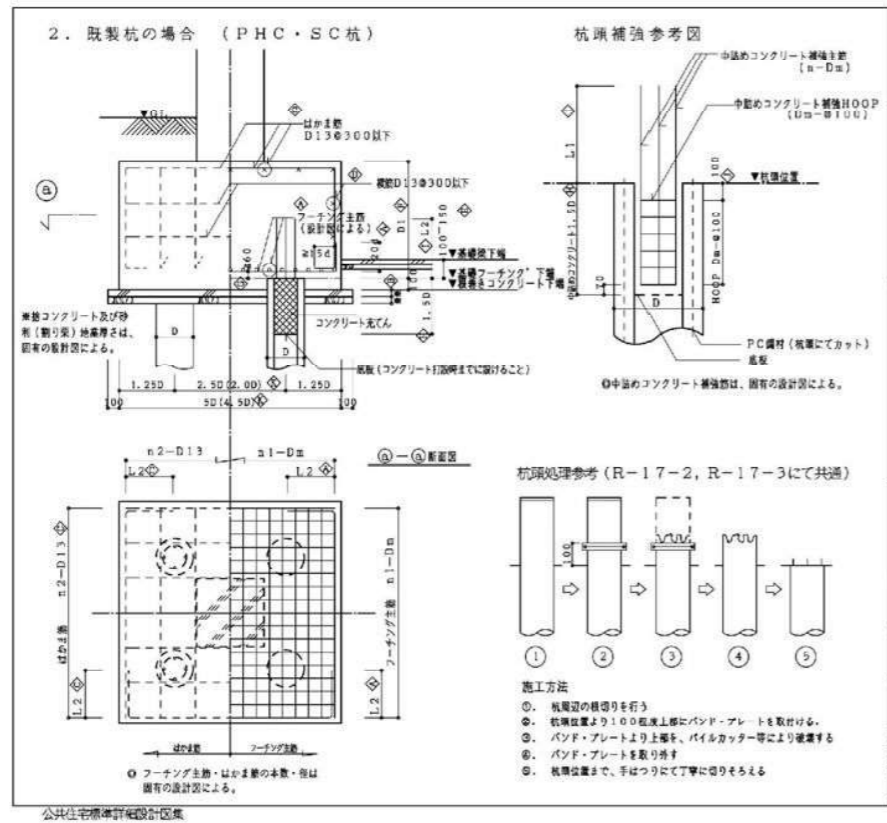
##### (a) 柱への配筋

##### (b) 梁への配筋

名称 ラーメン構造耐力壁・地下壁  
縮尺 R-15-1

|                                                                     |                                                                   |                                          |                                                               |                |
|---------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|----------------|
| 有限会社 青木設計工房<br>一級建築士 登録番号 第145060号<br>構造設計一級建築士 登録番号 第7440号<br>青木 稔 | 九尺設計 株式会社<br>一級建築士 登録番号 第21158号<br>構造設計一級建築士 登録番号 第2086号<br>鈴木 夕夏 | 株式会社 山田設計<br>一級建築士 登録番号 276958号<br>坂口 博文 | 西春住宅建築工事(第3工区)<br>鉄筋コンクリート構造<br>配筋基準図(4)<br>縮尺 A1:1<br>A3:1/2 | 図面番号<br>NO.56  |
| 検 製<br>図 図                                                          | 検 製<br>図 図                                                        | 検 製<br>図 図                               | 設計<br>H27年3月                                                  | 愛知県建設部建築局公営住宅課 |





R-23

フーチング主筋本数は設計図による。図有の設計図は一方を水平にL2定着し、他の一方を立上げる。

はかま筋のコンクリートの厚さは100mmとする。

はかま筋は特設な裏りD13φ300以下とし、実端部の余長は15d以上とし主筋とラップさせる。なお内側の鉄筋の納まりは主筋と同様とする。

基礎下層と基礎フーチング下層はフーチングの各部と基礎下層の鉄筋が重なるの範囲のため、100~150mmの余裕とする。

フーチングの厚さD1は、構造計算により決定する。

フーチング主筋は、杭頭からスベーク等により60mm以上の余裕を確保する。

中詰めコンクリートは、杭頭位置より鉄筋の1.5倍の範囲まで、十分に充填すること。

中詰めコンクリート補強主筋は、杭頭位置より1.5倍の範囲で行うこと。

中詰めコンクリート補強Hoopは、杭頭位置より100mmつった位置より斜めを挿入すること。

( ) 内裏筋は埋込み杭の場合を示す。

中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートの割合と同量のコンクリートを使用すること。

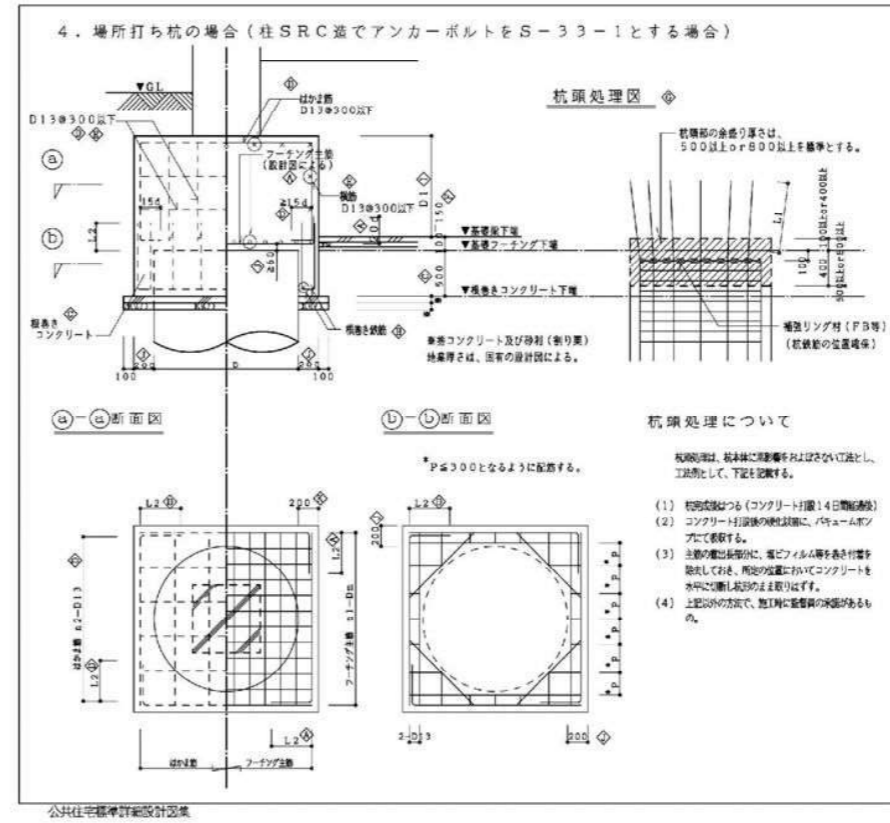
既製杭の基礎部分は、R-17-2及びR-17-3の2タイプであるので、どちらを使用するかの図有の設計図による。

杭の引き抜きに対しての杭頭部全体の計算を行う。

杭頭部全体の固定度(α)は、十分注意して設計する。

ラーメン構造基礎(その2)

R-17-2



R-25

両側部の鉄筋は一方を水平にL2定着し、他方を立上げるよう配筋する。

はかま筋のコンクリートの厚さは100mmとする。

はかま筋は特設な裏りD13φ300以下とし、実端部の余長は15d以上とし主筋とラップさせる。なお内側の鉄筋の納まりは主筋と同様とする。

基礎下層と基礎フーチング下層は、フーチングの各部と基礎下層の鉄筋が重なるの範囲のため、100~150mmの余裕とする。

フーチングの厚さD1は、構造計算により決定する。

フーチング主筋は、杭頭からスベーク等により60mm以上の余裕を確保する。

中詰めコンクリートは、杭頭位置より鉄筋の1.5倍の範囲まで、十分に充填すること。

中詰めコンクリート補強主筋は、杭頭位置より1.5倍の範囲で行うこと。

中詰めコンクリート補強Hoopは、杭頭位置より100mmつった位置より斜めを挿入すること。

( ) 内裏筋は埋込み杭の場合を示す。

中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートの割合と同量のコンクリートを使用すること。

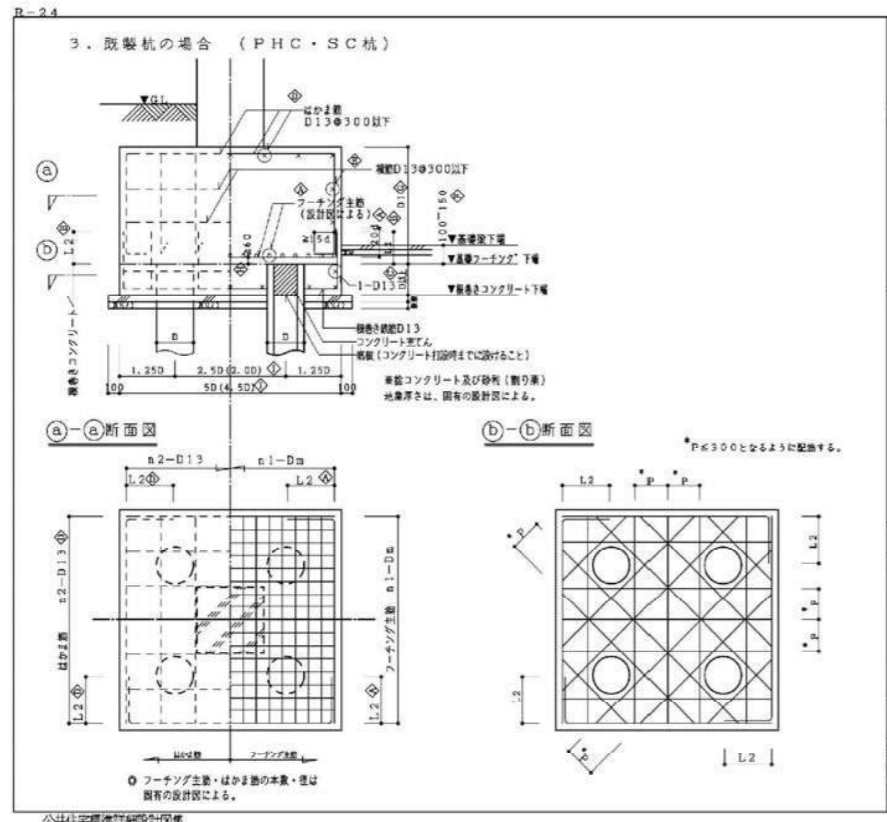
既製杭の基礎部分は、R-17-2及びR-17-3の2タイプであるので、どちらを使用するかの図有の設計図による。

杭の引き抜きに対しての杭頭部全体の計算を行う。

杭頭部全体の固定度(α)は、十分注意して設計する。

ラーメン構造基礎(その4)

R-17-4



R-24

フーチング主筋本数は設計図による。フーチング下部に於いて20d以上立ち上げらるものとする。図有の設計図は一方を水平にL2定着し、他の一方を立上げる。

はかま筋のコンクリートの厚さは100mmとする。

はかま筋は特設な裏りD13φ300以下とし、実端部の余長は15d以上とし主筋とラップさせる。なお内側の鉄筋の納まりは主筋と同様とする。

基礎下層と基礎フーチング下層は、フーチングの各部と基礎下層の鉄筋が重なるの範囲のため、100~150mmの余裕とする。

フーチングの厚さD1は、構造計算により決定する。

フーチング主筋は、杭頭からスベーク等により60mm以上の余裕を確保する。

中詰めコンクリートは、杭頭位置より鉄筋の1.5倍の範囲まで、十分に充填すること。

中詰めコンクリート補強主筋は、杭頭位置より1.5倍の範囲で行うこと。

中詰めコンクリート補強Hoopは、杭頭位置より100mmつった位置より斜めを挿入すること。

( ) 内裏筋は埋込み杭の場合を示す。

中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートの割合と同量のコンクリートを使用すること。

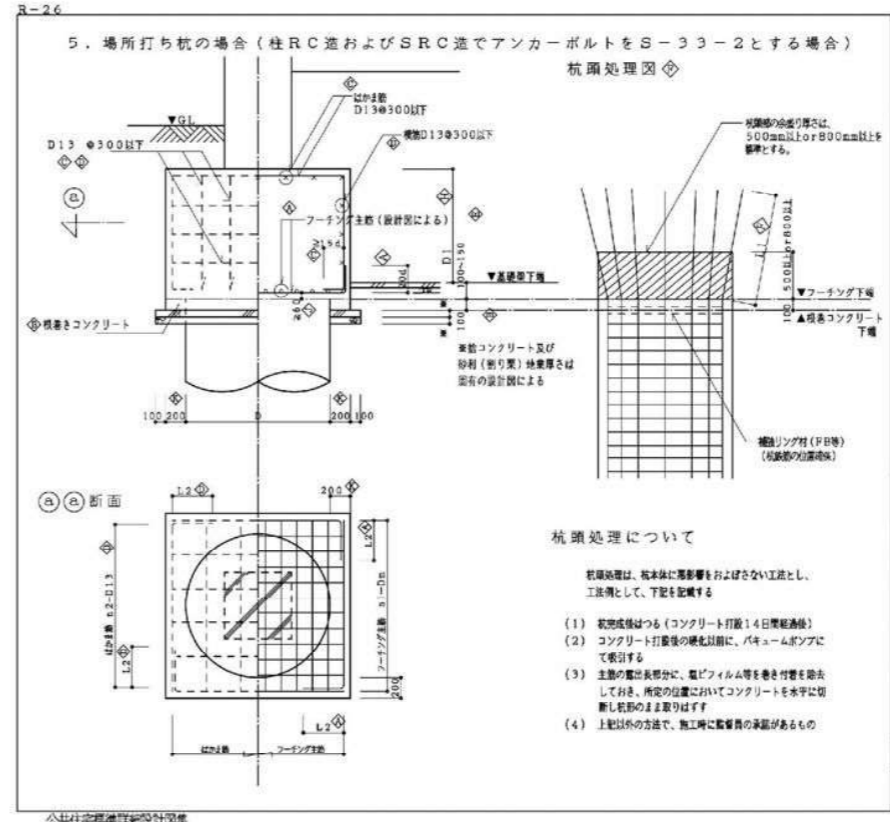
既製杭の基礎部分は、R-17-2及びR-17-3の2タイプであるので、どちらを使用するかの図有の設計図による。

杭の引き抜きに対しての杭頭部全体の計算を行う。

杭頭部全体の固定度(α)は、十分注意して設計する。

ラーメン構造基礎(その3)

R-17-3



R-26

両側部の鉄筋は一方を水平にL2定着し、他方を立上げるよう配筋する。

はかま筋のコンクリートの厚さは100mmとする。

はかま筋は特設な裏りD13φ300以下とし、フーチング下部まで下層、実端部の余長を15dとし主筋とラップさせる。

基礎下層と基礎フーチング下層は、フーチングの各部と基礎下層の鉄筋が重なるの範囲のため、100~150mmの余裕とする。

フーチングの厚さD1は、構造計算により決定する。

フーチング主筋は、杭頭からスベーク等により60mm以上の余裕を確保する。

中詰めコンクリートは、杭頭位置より鉄筋の1.5倍の範囲まで、十分に充填すること。

中詰めコンクリート補強主筋は、杭頭位置より1.5倍の範囲で行うこと。

中詰めコンクリート補強Hoopは、杭頭位置より100mmつった位置より斜めを挿入すること。

( ) 内裏筋は埋込み杭の場合を示す。

中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートの割合と同量のコンクリートを使用すること。

既製杭の基礎部分は、R-17-2及びR-17-3の2タイプであるので、どちらを使用するかの図有の設計図による。

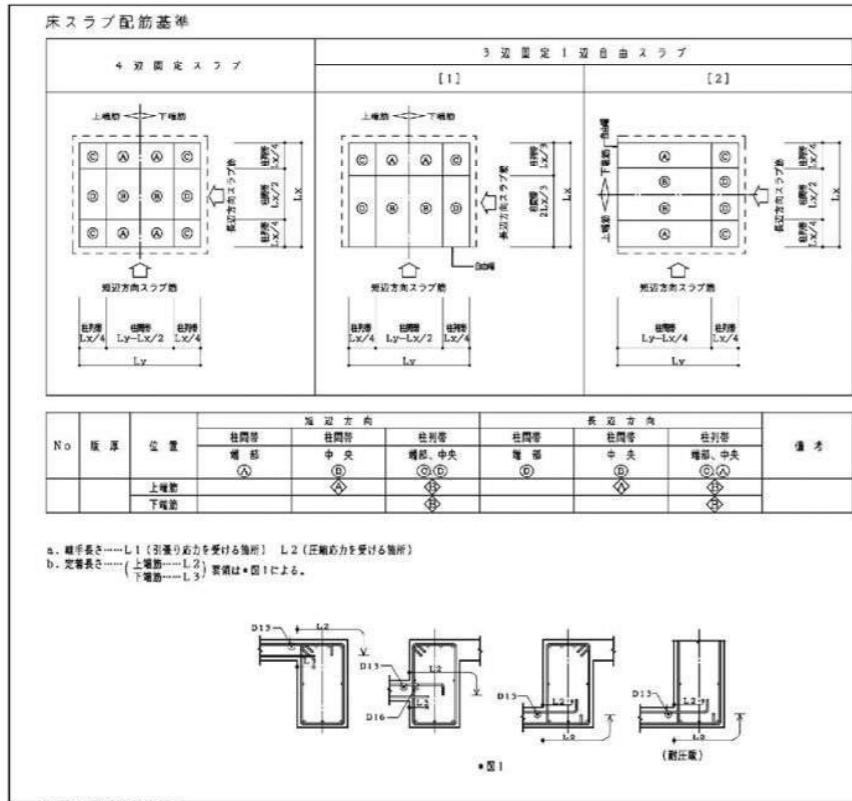
杭の引き抜きに対しての杭頭部全体の計算を行う。

杭頭部全体の固定度(α)は、十分注意して設計する。

ラーメン構造基礎(その5)

R-17-5

|                                                      |                                                      |                             |                        |        |
|------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|-----------------------------|------------------------|--------|
| 有限会社 青木設計工房                                          | 九尺設計 株式会社                                            | 株式会社 山田設計                   | 西帯住宅建築工事(第3工区)         | 図面番号   |
| 一般建築士 登録番号 第145060号<br>構造設計一般建築士 登録番号 第7440号<br>青木 稔 | 一般建築士 登録番号 第11158号<br>構造設計一般建築士 登録番号 第2086号<br>鈴木 夕夏 | 一般建築士 登録番号 276958号<br>坂口 博文 | 鉄筋コンクリート構造<br>配筋基準図(6) | NO.58  |
| 検 製 図                                                | 検 製 図                                                | 検 製 図                       | 設計                     | H27年3月 |
| 愛知県建設部建築局公営住宅課                                       |                                                      |                             |                        |        |



公共住宅標準詳細設計図集

R-3.9

中央部上層(図部分)は、標準上層部を1本おきに配置することを標準とする。

柱列間の配筋は、柱間部の配筋の1/2(両端補強)かつ下層の配筋以上とする。

| 柱間部上層部                 | 柱列部上下部 |
|------------------------|--------|
| D10 φ 150 D10 φ 250    |        |
| D10 φ 200 D10 φ 250    |        |
| D10 φ 250 D10 φ 250    |        |
| D10 φ 300 D10 φ 250    |        |
| D10 D13φ 150 D10 φ 200 |        |
| D10 D13φ 200 D10 φ 250 |        |
| D10 D13φ 250 D10 φ 250 |        |
| D10 D13φ 300 D10 φ 250 |        |

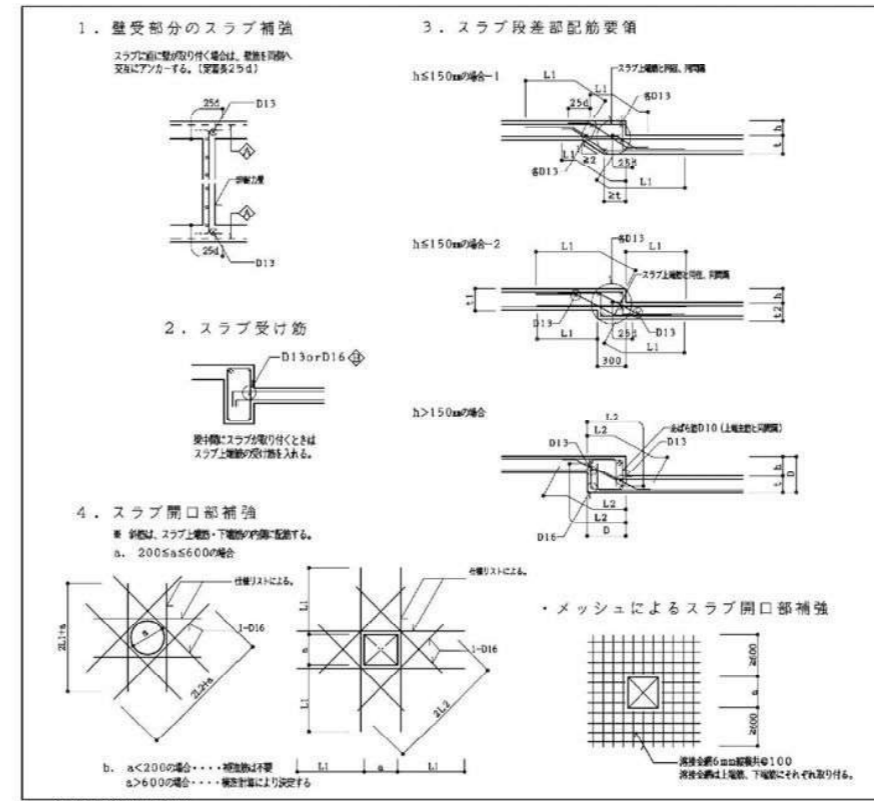
D13のみの上層部はD10をD13と読みかえて適用する。

3辺固定1辺自由スラブ[1]において $L_y/L_x \geq 2$ なる場合は、片端スラブに準じて取り扱う。

3辺固定1辺自由スラブ[1]、[2]の場合は、モジュール配筋とする。

床板(その1)

R-51-1



R-4.1

スラブ開口部にあたる場合は、原則として、上部配筋を $a$ とし、 $a$ に満たない場合は、下部配筋を $a$ とし、 $a$ に満たない場合は、 $a$ に満たない範囲内に配置する。この場合、補強筋の肉厚は、必ず標準に定着させる。

| a                     | 補強筋              |
|-----------------------|------------------|
| $200 \leq a < 400$    | 2-D <sub>a</sub> |
| $400 \leq a \leq 600$ | 3-D <sub>a</sub> |

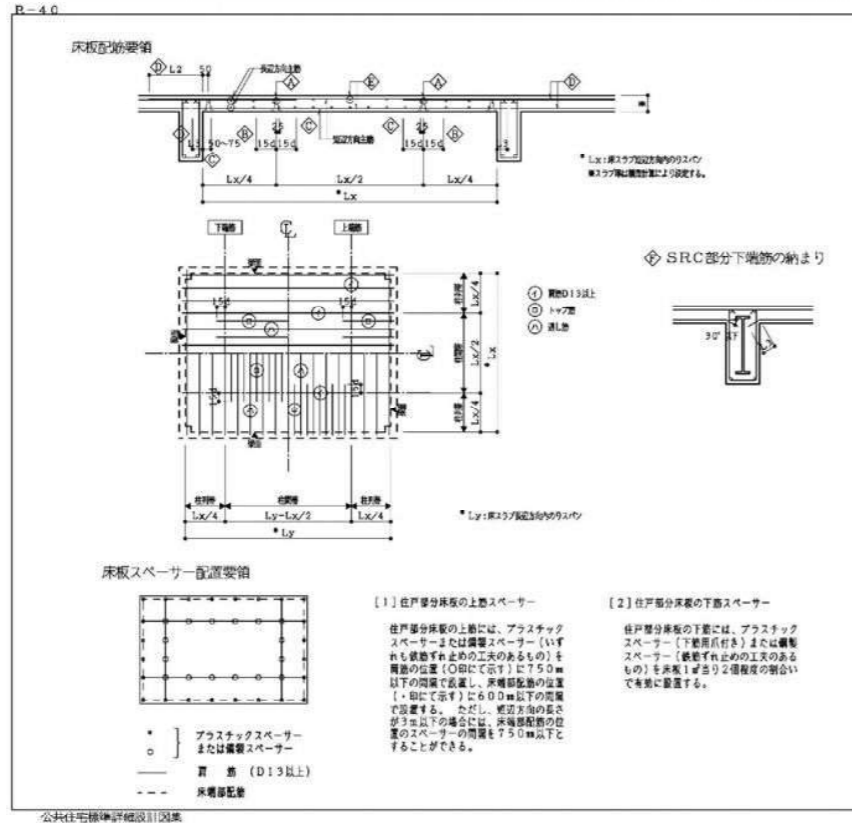
(補強筋本数以上・下層筋を示す。m: 切断されるスラブ厚の最大値)  
 上記のメッシュ配筋による補強も可。  
 スラブ厚が $> 150$ mmとなる場合については、出来れば小径の筋を併せて採用を行う。それが不可能な場合のみ、本図によって処理してもよい。

最上層スラブは壁による支持のため、上層に固定モーメントが生じる可能性がある。壁下層スラブは壁の重量により下層に付加モーメントが生じる。この最上層スラブに対する補強筋があるのは注意する。

受け筋は、スラブ上層部がD10の場合にはD13、D10D13又はD13の場合にはD10とする。

床板(その3)

R-51-3



R-4.0

筋径はD13以上とする。この位置のベアーは、床板スパーサー配置要領により決定する。

主筋のトップ筋は $L_x/4$ (長辺方向も $L_x/4$ )より15dは表する。リフト部分の下層筋は、ベアポイント等に当たらないよう25mm程度ずらすして配置する。

上層筋の配筋はL2とし、壁部スラブに定着する。透筋する場合は透しとしてよい。柱間等上層筋は梁中には継手を設けないことが望ましい。下層筋の定着はL3とし、床板スラブに定着し、透筋する場合は上層筋と同様な処理をしてよい。

柱間部中央上層筋は端部上層筋を1本おきに配置する。

SRCの場合のスラブ下層筋は、透筋に付かる場合は主筋または壁の主筋より下の層については3φを確保し、壁で固定の手を付けてよい。

従来のスラブの場合に於いては下層によるスラブ厚の差は、標準設計による。住戸の居住性及び施工性を上げるために、スラブ厚は150mm以上とするのが望ましい。

スラブの肉厚の差は、長期のため、及び荷重及び振動等要素上のため2φ以下とすることが望ましい。

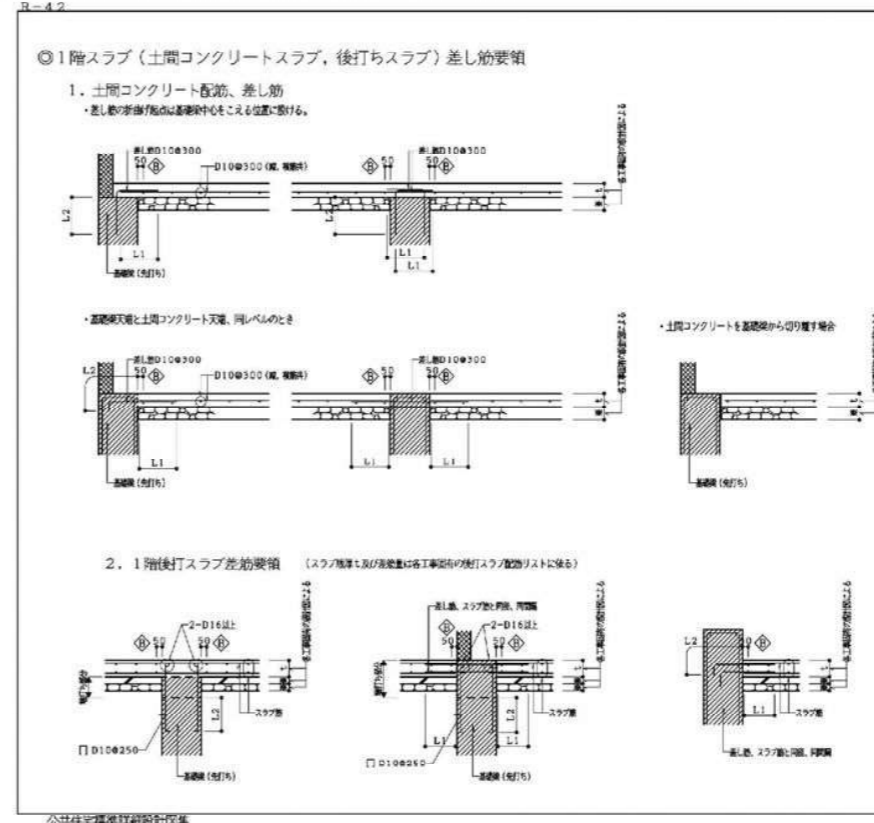
肉厚の差が2φを超える場合には、R-3.1-5の補強筋配置を行う。

住戸部分床板の上層スパーサー  
 住戸部分床板の下層スパーサー

公共住宅標準詳細設計図集

床板(その2)

R-51-2



R-4.2

土間コンクリート天端と標準天端が同一レベルになると、差し筋が肉厚を超過することとなるので、可能な限り巻筋をスラブとする。

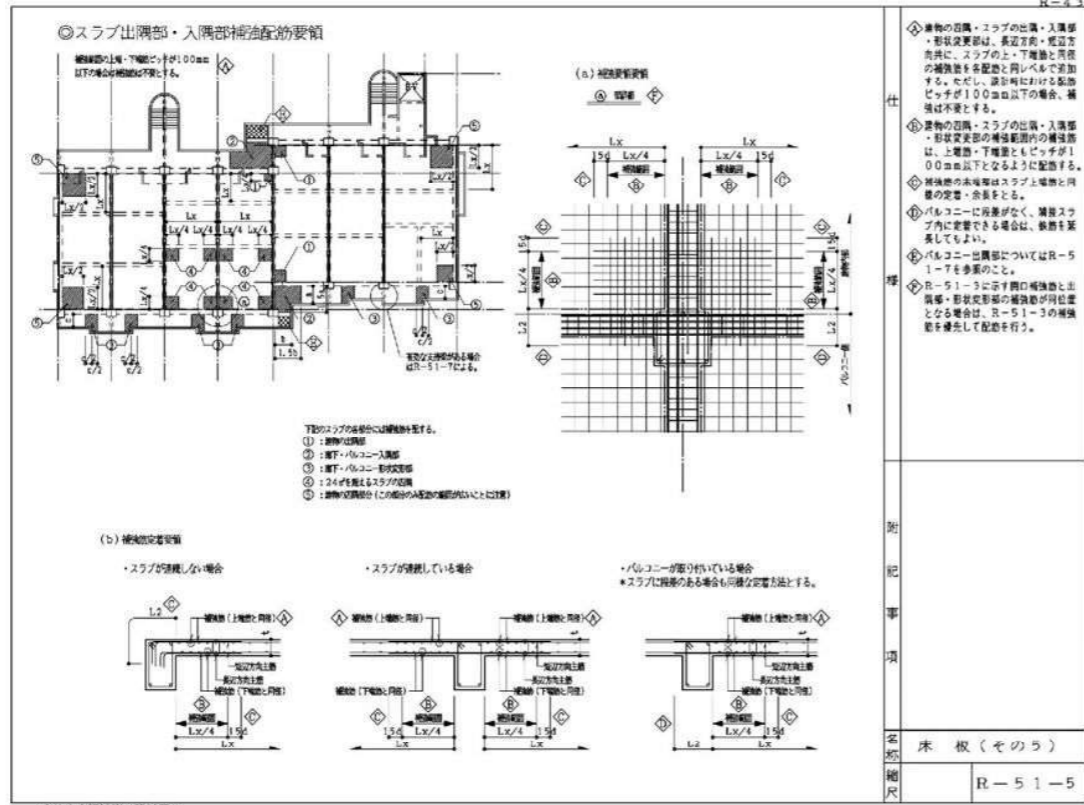
スラブ厚の差は、標準より50mmの位置に配筋するものとする。

土間コンクリートは、居室床には使用しない。

床板(その4)

R-51-4

|                                                                     |                                                                   |                                          |                                                                  |                                 |
|---------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| 有限会社 青木設計工房<br>一般建築士 登録番号 第145060号<br>構造設計一般建築士 登録番号 第7442号<br>青木 稔 | 九尺設計 株式会社<br>一般建築士 登録番号 第21158号<br>構造設計一般建築士 登録番号 第2086号<br>鈴木 夕夏 | 株式会社 山田設計<br>一般建築士 登録番号 276958号<br>板口 博文 | 西春住宅建築工事(第3工区)<br>鉄筋コンクリート構造<br>配筋基準図(7)<br>構 尺 A1:一<br>板 寸 A3:二 | 図番番号<br>NO.59<br>愛知県建設部建築局公営住宅課 |
|---------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|---------------------------------|



R-4.3

仕  
事  
記  
事  
項

◆建物の出隅・スラブリン出隅・入隅部  
形状変更時は、長辺方向・短辺方向  
共に、スラブリン上・下層とも同様の  
補強筋を配筋する旨を併記する。ただし、設計図に示す配筋  
ピッチが100mm以下の場合、補強  
筋は不要とする。

◆建物の出隅・スラブリン出隅・入隅部  
形状変更時の補強筋の配筋法は、上層部・下層部ともピッチが1  
00mm以下となるように配筋する。

◆補強筋の末端はスラブリン端部と同  
様の定着・余長とする。

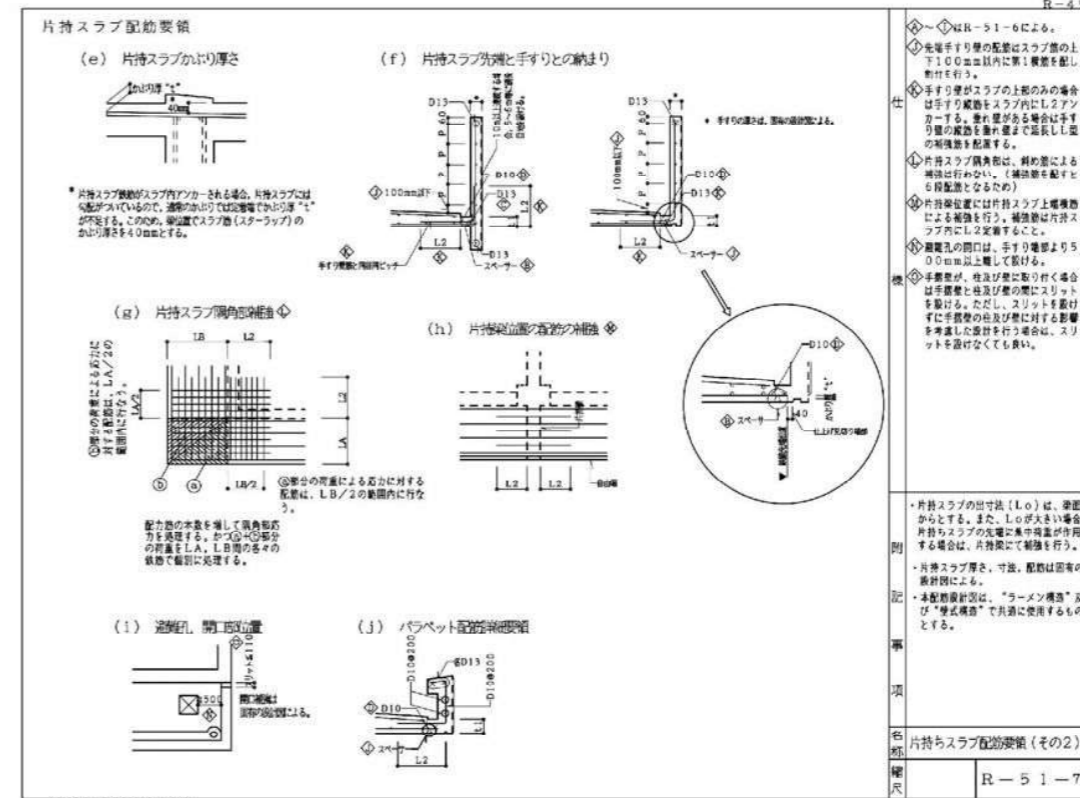
◆バルコニーに突き出た場合、補強スラ  
ブリンに突き出た場合は、鉄筋を兼  
用してもよい。

◆バルコニー出隅部についてはR-5  
1-7を参照のこと。

◆R-51-3に示す開口補強筋と出  
隅部・形状変更時の補強筋が同一位置  
となる場合は、R-51-3の補強  
筋を優先して配筋を行う。

名  
称  
片持ちスラブ配筋要領 (その1)

規  
格  
R-51-5



R-4.5

仕  
事  
記  
事  
項

◆R-51-6による。

◆手すり側の配筋はスラブリンの上  
下100mm以内で1層を配し、  
斜めを行う。

◆手すり側がスラブリンのみの場合  
は手すり側をスラブリンに2アン  
カーする。書架がある場合は手  
すり側の配筋を書架まで延長し上  
層の補強筋を配する。

◆片持ちスラブは、斜めによる  
補強は行わない。(補強筋を配すこ  
とを前提とする)

◆片持ちスラブリンに片持ちスラブリン上層補強  
筋による補強を行う。補強筋は片持ち  
スラブリンに2層を配すること。

◆縦筋の開口は、手すり側より5  
00mm以上離して配筋する。

◆手すり側、柱及び壁に取り付く場合  
は手すり側と柱及び壁の間にスリッ  
トを設ける。ただし、スリットを設け  
ずに手すり側の柱及び壁に対する影響  
を考慮した設計を行う場合は、スリ  
ットを設けなくてもよい。

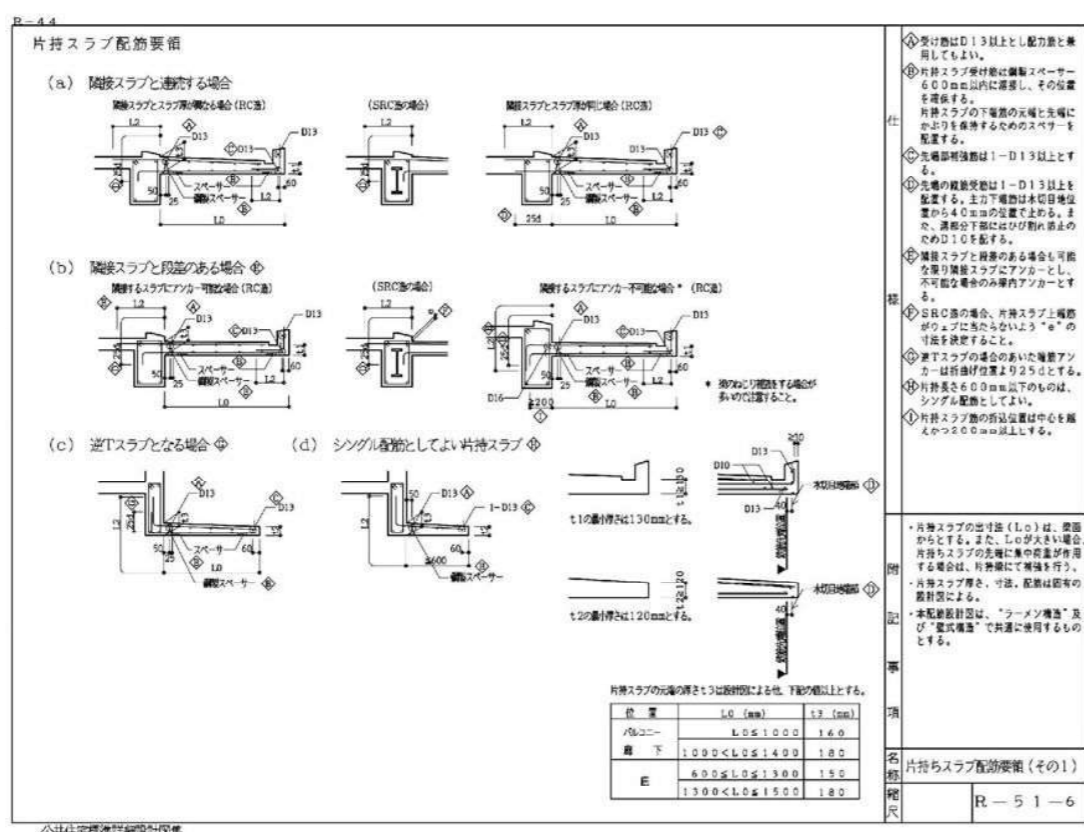
◆片持ちスラブリンの寸法(L0)は、図面  
からとする。また、L0が大きい場合、  
片持ちスラブリンの先端に集中荷重が作用  
する場合は、片持ち側にて補強を行う。

◆片持ちスラブリンの寸法、寸法、配筋は図面の  
設計図による。

◆本設計図書は、「ラーメン構造」及  
び「壁式構造」で共通に使用するもの  
とする。

名  
称  
片持ちスラブ配筋要領 (その2)

規  
格  
R-51-7



R-4.4

仕  
事  
記  
事  
項

◆受け筋はD13以上とし配力筋と兼  
用してもよい。

◆片持ちスラブリン鉄筋は鋼筋スぺーサ  
60mm以内で固定し、その位置  
を確保する。

◆片持ちスラブリンの下層部の鉄筋と先端に  
かぶりを保つためのスぺーサを  
配置する。

◆先端部鉄筋は1-D13以上とし  
る。

◆先端部の鉄筋受は1-D13以上を  
配置する。主力下層筋は本図目録位  
置から40mmの位置で止める。ま  
た、鉄筋の下部にはひび割れ防止の  
ため10を配する。

◆補強スラブリンと接する場合は可能  
な限り補強スラブリンにアンカーとし、  
不可な場合は内層内アンカーとし  
る。

◆SRCの場合、片持ちスラブリン上層筋  
がウェブに当たらないよう“φ”の  
半高を確保すること。

◆床下スラブリンの場合の鉄筋アン  
カーは斜め位置より25dとする。

◆片持ち長さ600mm以下のものは、  
シングル配筋としてよい。

◆片持ちスラブリンの筋位置は中心を  
偏さず200mm以上とする。

◆片持ちスラブリンの寸法(L0)は、図面  
からとする。また、L0が大きい場合、  
片持ちスラブリンの先端に集中荷重が作用  
する場合は、片持ち側にて補強を行う。

◆片持ちスラブリンの寸法、寸法、配筋は図面の  
設計図による。

◆本設計図書は、「ラーメン構造」及  
び「壁式構造」で共通に使用するもの  
とする。

名  
称  
片持ちスラブ配筋要領 (その1)

規  
格  
R-51-6

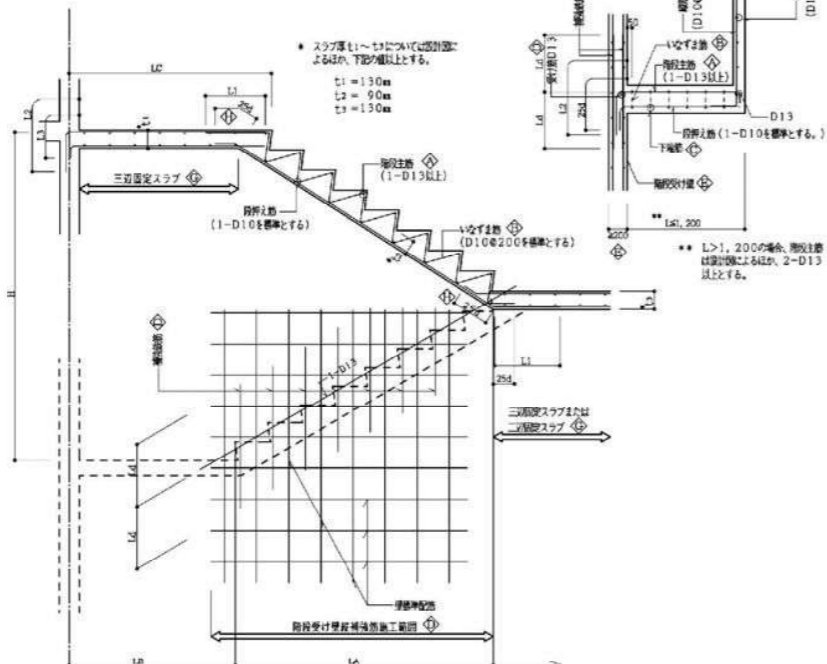
|                                                      |                                                       |                             |                                                  |                |
|------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|-----------------------------|--------------------------------------------------|----------------|
| 有限会社 青木設計工房                                          | 九尺設計 株式会社                                             | 株式会社 山田設計                   | 西春住宅建築工事 (第3工区)                                  | 図面番号           |
| 一級建築士 登録番号 第145060号<br>構造設計一級建築士 登録番号 第7440号<br>青木 稔 | 一級建築士 登録番号 第291158号<br>構造設計一級建築士 登録番号 第2086号<br>鈴木 夕夏 | 一級建築士 登録番号 276958号<br>坂口 博文 | 鉄筋コンクリート構造<br>補 尺<br>配筋基準図 (8)<br>A1: 一<br>A3: 二 | NO. 60         |
| 検 製<br>図 図                                           | 検 製<br>図 図                                            | 検 製<br>図 図                  | 設 計<br>H27年 3月                                   | 愛知県建設部建築局公営住宅課 |



R-4.6

### 階段配筋詳細図

#### 1) 片持階段の配筋 [住棟内]



公共住宅標準詳細設計図書

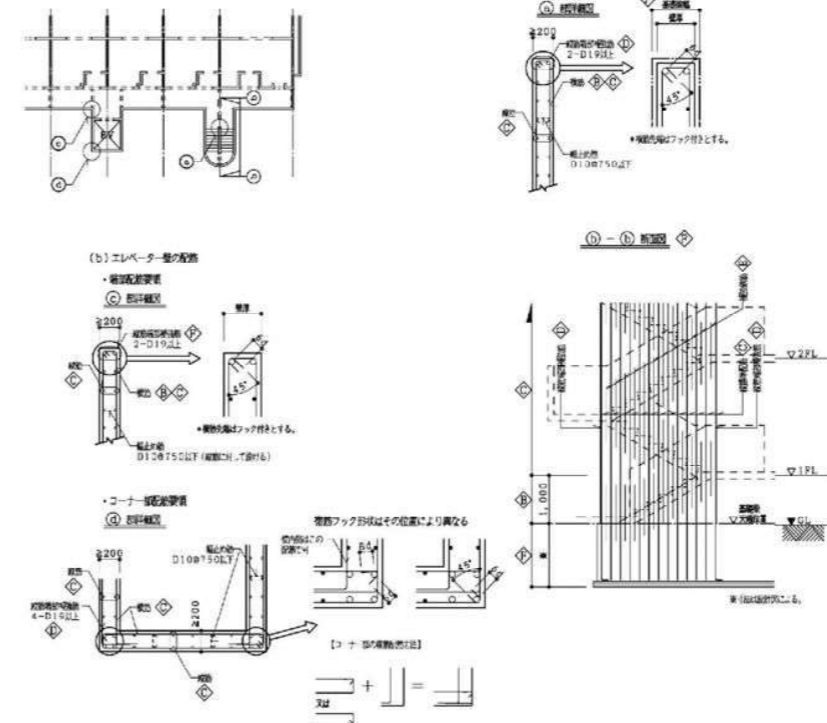
- 階段主筋は設計図によるほか、1-D13以上とする。
- いなし筋はD10φ200を標準とし、階段受け梁より90mmの位置に等しいなし筋を配筋する。
- 下筋はD10φ200を標準とする。(ピッチはいなし筋と同じとし、いなし筋の幅に配筋する。)
- 片持階段受け梁に設ける筋の曲げ補強筋の位置、及びその定着長さ等は設計図による。
- 階段受け梁の厚さは200mm以上とする。
- 屋外階段受け梁の配筋については、R-55-3を参照する。
- 階段手すりの配筋は片持スラブ先端の手すりの配筋要領 (R-55-7) に従う。
- 踊り場のスラブは三辺固定スラブ、または二辺固定スラブとして計算した上でモメンタ配筋を行うものとする。

・L.A, L.B, L.C, Hは図有の設計図による。

階段廻り (その1)  
 縮尺 R-55-1

R-4.8

### 3) 屋外階段及びエレベーター壁配筋要領



公共住宅標準詳細設計図書

- 建物本体から突出する屋外階段の受渡及びエレベーター壁の構造は既設の外観に準じた形式で配筋する。
- 標準筋は、基礎スラブから1m以内は、ピッチ計算による他、D10φ100以下となるように配筋する。
- 標準筋・標準筋は、ピッチ計算による他、D10以上の筋筋をφ250以下となるように配筋する。
- 階段幅増強筋は計算による他、標準筋は2-D13以上、コーナー部は4-D13以上の筋筋を配筋する。
- 階段幅の配筋要領については、R-55-1を参照する。
- 既設は基礎梁内で十分な定着を行う。この時、基礎梁幅は標準以上とする。

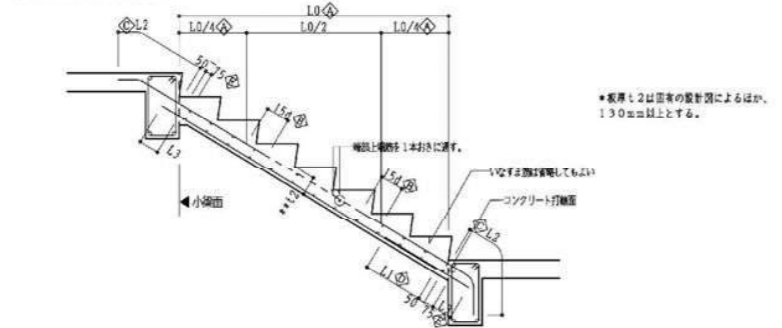
・各部の配筋 (いなし筋等) はR-35, R-55-1による。  
・本図は、「ラーメン構造」"壁式構造"にて共通とする。

階段廻り (その3)  
 縮尺 R-55-3

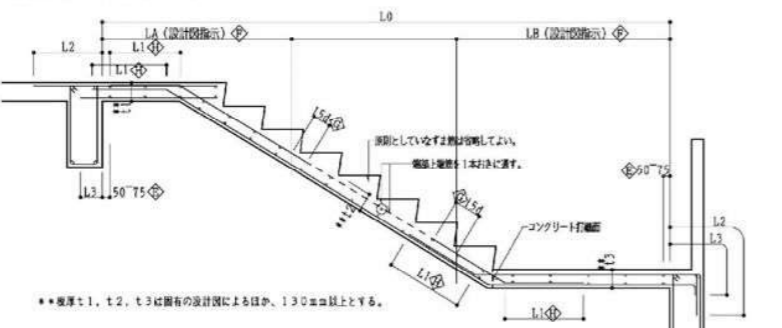
R-4.7

### 2) スラブ階段の配筋

#### (a) 階段の両端に小梁のある場合



#### (b) 折曲りスラブ途中にある場合



公共住宅標準詳細設計図書

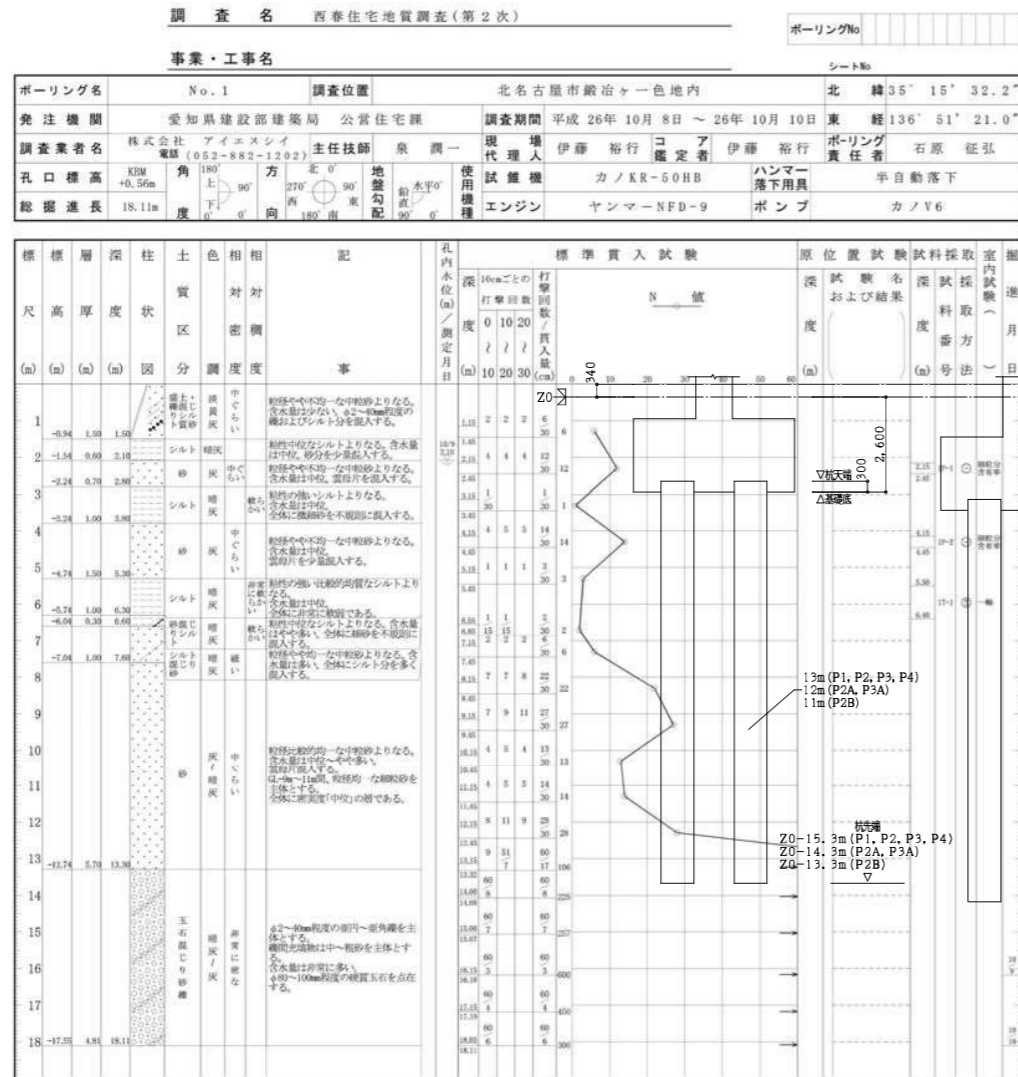
- 主筋の標準中央区分は、階段内の90mm間隔の1/4の点とする。(通常のスラブと同様である。)
- 端部トップ筋の余長は、L0/4の点より15dとする。
- 端部上端筋は隣接するスラブ内、または梁に十分定着させること。定着長はL2とする。
- 端部下筋はL0/4の区間内とする。コンクリート打継ぎがあるので注意すること。
- 斜交筋の端部位置を示す。配筋図はこの位置から割付ける。
- 主筋の標準中央区分は設計図によるものとする。
- 端部の上端筋の余長は区分より15dとする。
- 折曲り点に於いて上筋部、下筋部と標準筋を1本とって、各スラブ筋部と連続させる。

・各部の配筋 (いなし筋等) はR-35, R-55-1による。

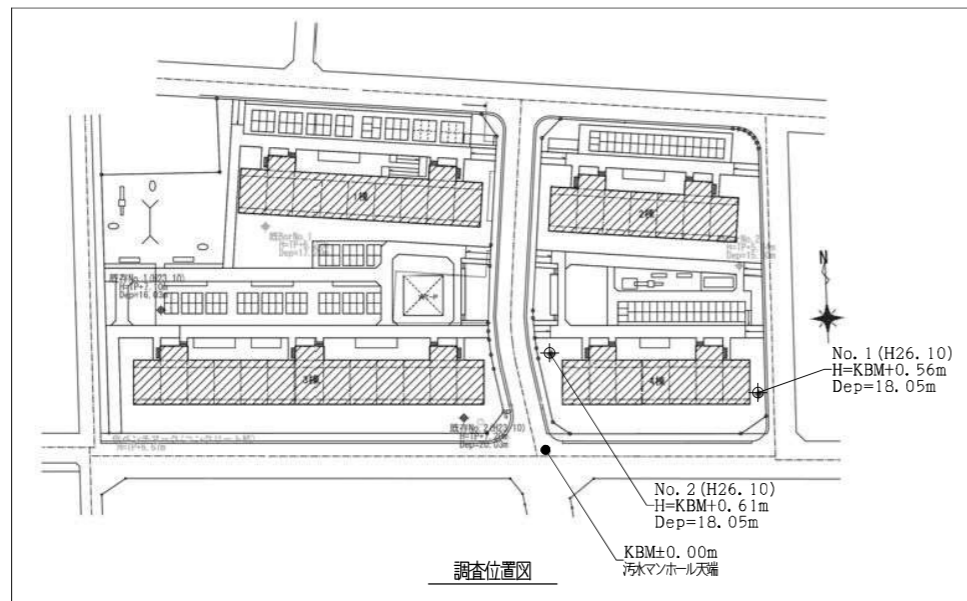
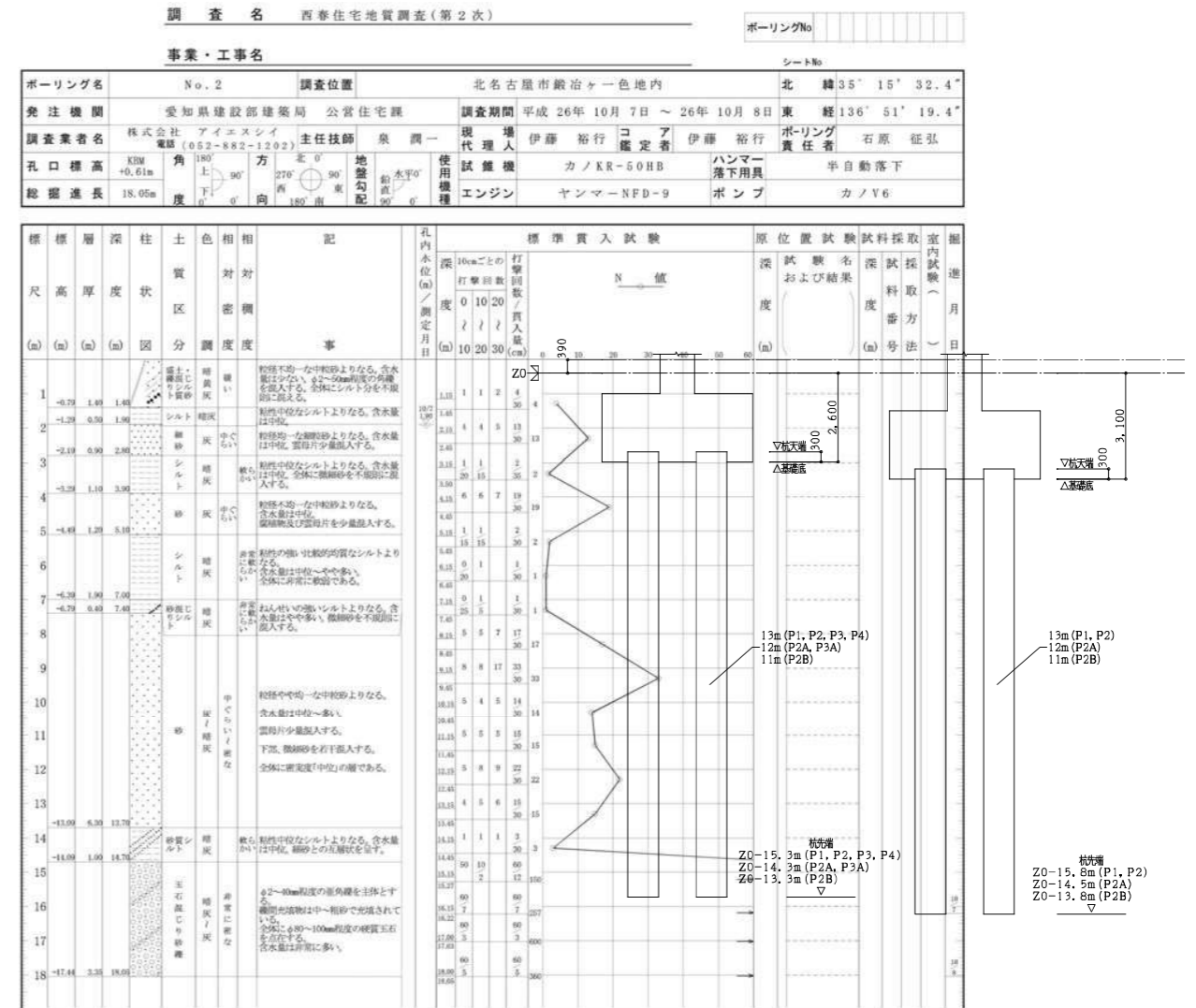
階段廻り (その2)  
 縮尺 R-55-2

|                                                      |                                                      |                             |                         |                                    |
|------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|-----------------------------|-------------------------|------------------------------------|
| 有限会社 青木設計工房                                          | 九尺設計 株式会社                                            | 株式会社 山田設計                   | 西春住宅建築工事 (第3工区)         | 図面番号                               |
| 一級建築士 登録番号 第145060号<br>構造設計一級建築士 登録番号 第7442号<br>青木 稔 | 一級建築士 登録番号 第21158号<br>構造設計一級建築士 登録番号 第2096号<br>鈴木 夕夏 | 一級建築士 登録番号 276958号<br>坂口 博文 | 鉄筋コンクリート構造<br>配筋基準図 (9) | 縮尺<br>A1: 1/2<br>A3: 1/2<br>NO. 61 |
| 検 製<br>図 図                                           | 検 製<br>図 図                                           | 検 製<br>図 図                  | 設 計<br>H27年 3月          | 愛知県建設部建築局公営住宅課                     |

ボーリング柱状図

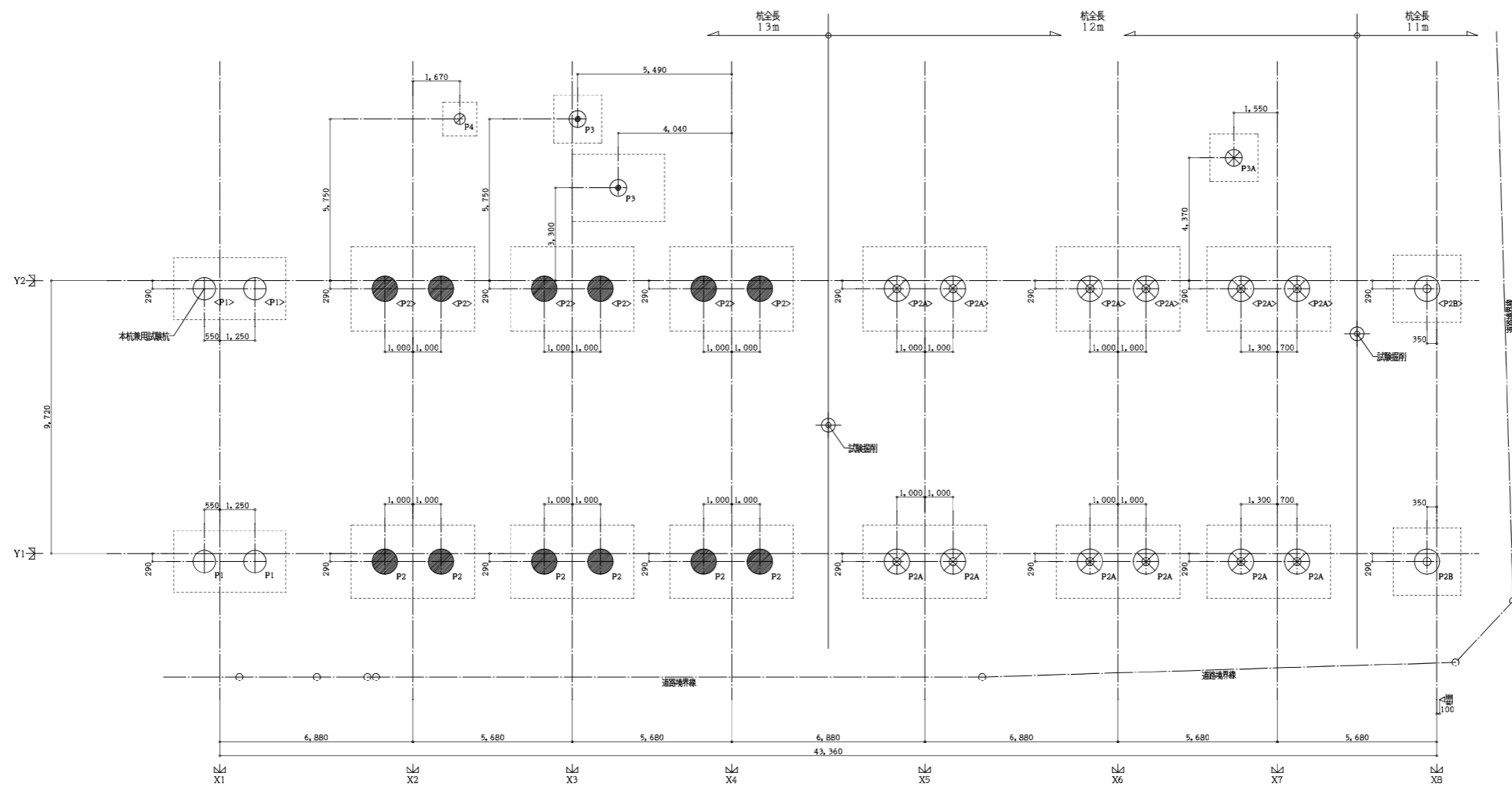


ボーリング柱状図



Z0=KBM+220

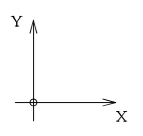
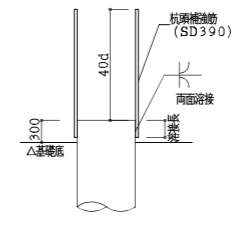
|                                                      |                                                       |                                                      |                            |                |
|------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|----------------------------|----------------|
| 有限会社 青木設計工房                                          | 九尺設計 株式会社                                             | 株式会社 山田設計                                            | 西春住宅建築工事(第3工区)             | 図面番号           |
| 一級建築士 登録番号 第145060号<br>構造設計一級建築士 登録番号 第7442号<br>青木 稔 | 一級建築士 登録番号 第291158号<br>構造設計一級建築士 登録番号 第2086号<br>鈴木 夕夏 | 一級建築士 登録番号 276958号<br>構造設計一級建築士 登録番号 第2086号<br>坂口 博文 | ボーリング柱状図<br>A1: 1<br>A3: 1 | N. 0. 6. 2     |
| 検 製 図 図                                              | 検 製 図 図                                               | 検 製 図 図                                              | 設計<br>H 27年 3月             | 愛知県建設部建築局公営住宅課 |



杭芯状図 S=1/100

- 特記なき限り下記による
- 杭天端は Z0-2300 とする
  - < >付符号は 杭天端 Z0-2800 とする
  - 杭施工前に試験掘削を行い、支持層を確認すること
  - 試験掘削は杭製作前の標準貫入試験（先測N値確認）としてもよい  
また、その試験結果により杭長の変更を監理者と協議の上、行うことが出来る

| 杭工法   | Hyper-MEGA工法 (拡大掘削率 $\omega=1.0$ ) 継手は無溶接継手とする |                                         | ※杭の施工誤差による杭芯ずれは100mmまで許容する |          |           | 杭頂補強筋  |       |       |
|-------|------------------------------------------------|-----------------------------------------|----------------------------|----------|-----------|--------|-------|-------|
| 符号    | 上杭                                             | 下杭                                      | 長期許容支持力                    | 短期許容支持力  | 終局許容支持力   | 補強筋    | 溶接長   | 脚長    |
| P1 ○  | SC杭105N $\phi 800$ (SKK490 t=12.0) L=6.0m      | JP-NPH105N $\phi 800-600-800$ B種 L=7.0m | 3310kN/本                   | 6620kN/本 | 9930kN/本  | 14-D38 | 230mm | 9.0mm |
| P2 ●  | SC杭105N $\phi 900$ (SKK490 t=12.0) L=6.0m      | JP-NPH105N $\phi 900-700-900$ B種 L=7.0m | 4190kN/本                   | 8380kN/本 | 12570kN/本 | 16-D38 | 230mm | 9.0mm |
| P2A ⊗ | SC杭105N $\phi 900$ (SKK490 t=12.0) L=5.0m      | JP-NPH105N $\phi 900-700-900$ B種 L=7.0m | 4190kN/本                   | 8380kN/本 | 12570kN/本 | 16-D38 | 230mm | 9.0mm |
| P2B ⊕ | SC杭105N $\phi 900$ (SKK490 t=12.0) L=5.0m      | JP-NPH105N $\phi 900-700-900$ B種 L=6.0m | 3970kN/本                   | 7940kN/本 | 11910kN/本 | 16-D38 | 230mm | 9.0mm |
| P3 ⊙  | SC杭105N $\phi 600$ (SKK490 t=9.0) L=6.0m       | JP-NPH105N $\phi 800-600$ A種 L=7.0m     | 3310kN/本                   | 6620kN/本 | 9930kN/本  | 10-D29 | 140mm | 9.0mm |
| P3A ⊗ | SC杭105N $\phi 600$ (SKK490 t=9.0) L=5.0m       | JP-NPH105N $\phi 800-600$ A種 L=7.0m     | 3310kN/本                   | 6620kN/本 | 9930kN/本  | 10-D29 | 140mm | 9.0mm |
| P4 ⊘  | SC杭105N $\phi 400$ (SKK490 t=12.0) L=6.0m      | JP-NPH105N $\phi 500-400$ A種 L=7.0m     | 1290kN/本                   | 2580kN/本 | 3870kN/本  | 8-D32  | 170mm | 9.0mm |



|                                                                     |                                                                    |                                          |                                                      |                |
|---------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------------------|----------------|
| 有限会社 青木設計工房<br>一級建築士 登録番号 第145060号<br>構造設計一級建築士 登録番号 第7442号<br>青木 稔 | 九尺設計 株式会社<br>一級建築士 登録番号 第291158号<br>構造設計一級建築士 登録番号 第2086号<br>鈴木 夕夏 | 株式会社 山田設計<br>一級建築士 登録番号 276958号<br>坂口 博文 | 西春住宅建築工事 (第3工区)<br>杭芯状図<br>縮尺 A1: 1/100<br>A3: 1/200 | 図面番号<br>NO. 63 |
| 検 製 図 図                                                             | 検 製 図 図                                                            | 検 製 設計 図 図                               | 愛知県建設部建築局公営住宅課<br>H27年 3月                            |                |